

生命有機化学セミナー

コファクターを基軸とした翻訳後修飾解析



島津 忠広 専任研究員

(国立研究開発法人理化学研究所)

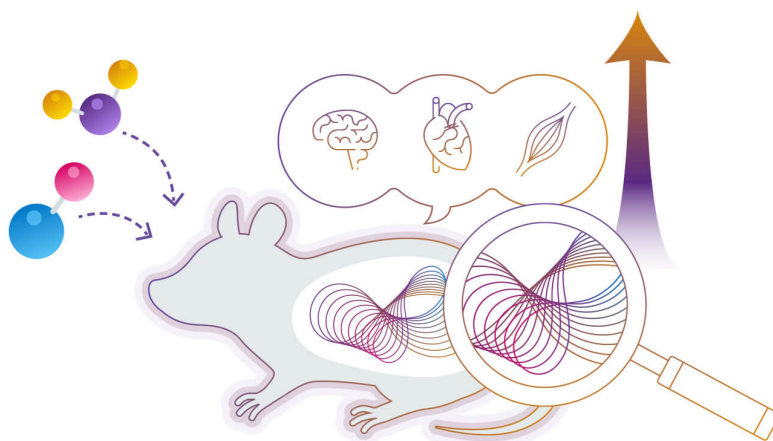
Lab HP



2024年7月19日 (金), 16:00~17:00

開催場所: フォレストハウス1階 F106号教室

翻訳後修飾はDNA、RNA、タンパク質をはじめとした生体内の多様な分子の機能制御に寄与しています。ヒスチジンメチル化はタンパク質翻訳後修飾の1つであり、その存在は50年以上前から知られていましたが、修飾酵素の実体をはじめとして、標的タンパク質はどれほどあるのか、どのような生命機能の制御に寄与するのかについてはつい最近まで謎のままでした。講演者は、コファクターを基軸とした修飾解析によって、哺乳類のタンパク質ヒスチジンメチル化の責任酵素をほぼ同定し、それがどのようなタンパク質を標的としているのか明らかにしてきました。本講演では、その研究手法を中心に、これまでに分かったヒスチジンメチル化修飾を議論していただきます。



Selected papers

- 1) *Genes & Dev.* 37, 724-742 (2023).
- 2) *Elife.* 11, e72780 (2022).
- 3) *Nat Commun.* 12, 891 (2021).



Contact: 生命科学部応用化学科 五月女 宜裕 (内線4351)
E-mail: sohtome@fc.ritsumei.ac.jp

本講演会は学術変革領域研究(B): neo-PTMs (令和4~6年度) の支援を受けています。